

DUST BOX

か奈こ

私はゴミ箱です。公園に設置されているゴミ箱です。ニンゲンという名のもものたちが、いろいろ好むものも、私の中に捨てていきま

ミンミンミン。

蝉が家族を求めてはいています。私も声をあげてはき、家族というものを求めてみた

い。家族とは、どういうものなのだろう。

カラン、ドスン。

ニンゲンが中身のたくさんはいった缶を、

私の中に捨てていききました。

ゴミ箱の私が衝撃を感じた分、ニンゲンは

心が軽くはるようです。

オヤヤア。トン、トン。

私から少し離れた場所でもちいさな  
 ニンゲンが顔を真赤にしてほきだしました  
 ちいさなニンゲンを、オトすと呼ばれる  
 ニンゲンが、しっかりと抱きしめ、とても  
 優しく、そしてとてもゆづくりと、そのち  
 いさな背中をたたいています。  
 ダイジヨウブ、ダイジヨウブだよ。と、優  
 しい声をかけながら。  
 それほきつと、愛情と呼ばれるものであ  
 り。私は愛情と呼ばれるものを目にすると、苦  
 しくなり、ほき叫びたくなります。  
 どうしてほのかかりません。  
 いいえ、きつと、どうしてほのか、心の底  
 には答えがあるのでしょうか。  
 ただ、ほき叫び、壊れそうになるわけを考  
 えたくはないのです。認めたくはないのです。

ニンニンニン。

ちいさな家族がみつかるといいね。家族とは  
 蟬が家族を求めてほいています。蟬さんた

どういふものか、わからなけれど、とてもい  
へものなのでしよ。う。  
あ、あなたたち、そしてニンゲんたちも幸せで  
ありますように。  
私は今日も公園の中、お母さんのゴミも受  
け入れています。お母さんの幸せを願って  
います。

ドーン。ガッン。ガシヤン。

ニンゲんが私を蹴り倒していきました。

いまのニンゲんさん。心、軽くおぼたかな。

私を蹴り倒したあなた、あなたか幸せであ  
りますように。

講評（星野）

短いけれども、心の引き裂かれるような作品でした。生きて血の出る言葉で書かれていると感じました。路上文学賞の定義でいう「路上」にいる人とは、「ニンゲン」という名のものたち」からはみ出た存在なんでしょうね。でも、ぼくにはこの作品の語り手であるDUST BOXのほうが、人間に思えます。「ニンゲン」ではなくて。こんなに読み手の心を震わせる言葉を持つDUST BOXにこそ、幸があってほしいです。か奈こさん、書き続けてくださいね。